

人との豊かな交流のできる子をめざして

一手指操作、ことば、自己統制、交流へのアプローチ

杉谷真由美

1. はじめに：ほとんど発語のない子として入学してきたY子だが、その原因は人との交流の経験の乏しさにあると考えられた。一方、手指操作も未熟で、友達の中に入れず、自信のない生活をしてきたことも原因の一つと考えられた。そこで、これらの問題を解決して、人と豊かに交流のできる子をめざす取り組みをした。

2. Y子の実態

(1) 生育歴 S52.9.10生(8歳) 正常分娩、定領：4ヶ月、初歩：4ヶ月、離乳：22ヶ月。幼児期に両親が別居、母親に引き取られる。S59末、父親との同居となる。現在、父・兄(17歳)姉(10歳)との4人家族。通園施設1年、R幼稚園1年、M小学校1年を経て、S60.4、本校に入学。

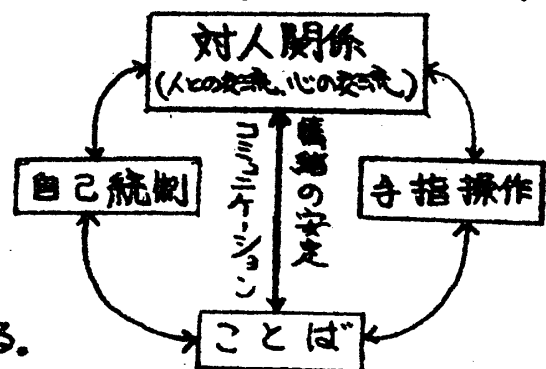
(2) 遠城寺式発達検査 移動運動 3:9、手の運動 3:4、基本的な生活習慣 3:8、対人関係 3:0、発語 2:6、言語理解 2:9(S60.4) 2歳半～4歳の発達像で自我成立・反抗と迷いの年齢期と言える。

(3) 性格・行動上の特徴 先生のおしなをすることを好む。他の子がかわいがられたり、先んじたりすると、カッと成って攻撃的な振舞いをする。人前で極端に取すかしがり、引っ込み思案になる。手先が不器用である。

3. 指導仮説

特に言語に遅れを持っていたY子だが、父親との同居に伴う愛情の充実によって、性格的に明るくなり、言葉が増えたことや、入学してからの精神的解放などを見て、Y子の問題点は、生育歴や家庭環境とも関って、人との交流やそれによる安定した心が育っていないためと考えられた。

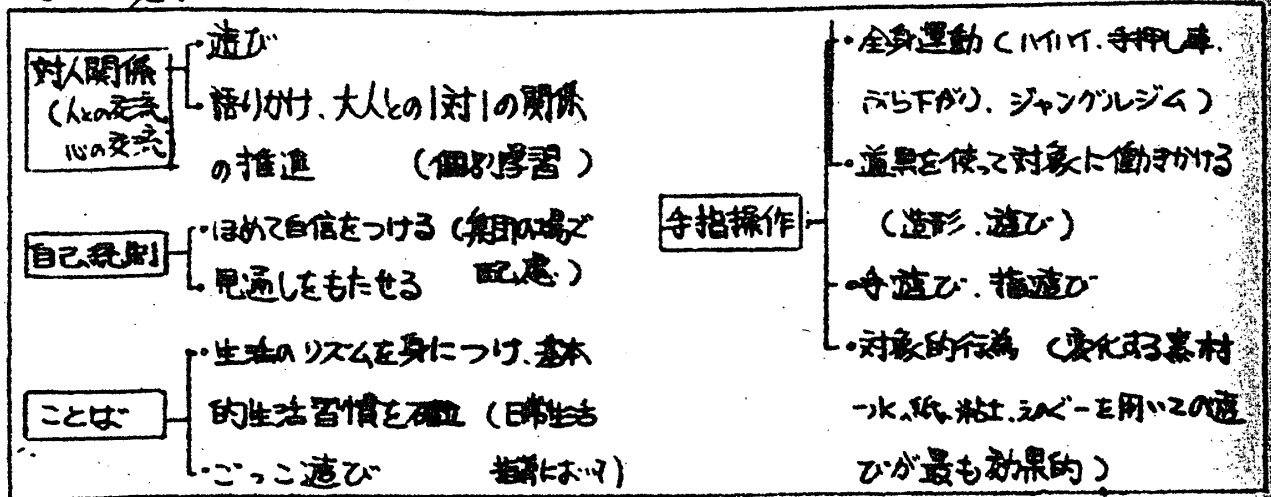
更に、Y子の問題点は、手指操作、ことば、自己統制、対人関係の4つにまとめられ、しかも、それらは相互関係があることに気付いた。これを図式化してみると右図のようになる。



このような相互関係から、Y子に対して、4つの視点から指導の機会をとらえ、バランスのとれた発達を促す取り組みを行うことにした。そのことが豊かな交流につながると期待できる。

3. 指導の重点と方法

手指操作、ことば、自己統制、対人関係それぞれの能力を高めるうえで大切なことを、文献・新版K式発達検査における助言・Y子の観察などを検討し、次のように設定した。



各指導形態において、上に挙げた重点の指導の機会をとらえてアプローチする。次に個別学習における実践例を記してみたい。

4. 実践例—個別学習における取り組み

(1) 個別学習の考え方

(ア) 他の子とのいざこざのない、気の散らない、落ち着いた環境の中で、大人との1対1の最も基本的な関係を深める取り組みをして、心の安定、解放を得ることを期待する。

(イ) 楽しく遊ぶことを通して、心の安定や解放を促すことを第一とし、遊びに力点を置く。その遊びは、Y子が最も興味を持ち、発達段階の上からも適当なままごと遊びが中心となった。

(ウ) 新版K式発達検査において、Y子は遊びの雰囲気の中で力を出し切るタイプであるという助言を参考に、ままごと遊びを通して、手指操作、かず、模倣、認識等の能力を高めることをねらう。しかし、訓練的・課題的にならないようにする。

(エ) 生活に親着した、生活单元や教科と連携のある教材を通じた指導、遊びを工夫し、見通しを持ち、情緒を安定させるために、できるだけ学習内容をパターン化して繰り返す。

(2) 個別学習の流れ

月	学習活動		指導上の 意図・観点	月	学習活動		指導上の 意図・観点	
4	粗大運動 ○三輪車 走る	手あそび 指あそび ○おはなし指さん ○おまんこひらいて ○手とたたきまじらう ○おもちゃのシャッシャ	手指操作 ○パズル ○カルタ ○絵本とみて動物模倣 ○ちり紙のまじらひ ○色板分け ○なごりかき	4月~5月	指あそび 指あそび ○おはなし指さん ○おもちゃのシャッシャ	おごと遊び ○おはなし指さん ○おもちゃのシャッシャ	粗大運動 ○三輪車 走る	
5				6月~7月				9月~
6				○実態把握 ○個別学習に慣れる				○生活と関心の深まり ○粘土の取り廻し
7	○パターンの作り ○感覚運動機能向上							

(3) 個別学習への考察

Y子の興味・関心に基づいて、やや試行錯誤的に進めた個別学習である。しかし、内容のパターン化、繰り返しによって、Y子にとって技能的な成長・発達も見られた。(粘土の操作、指あそびによる指の分化)も、生単や教材との関連のある内容に取り組んだことによって、生単や教材への自信・意欲も培われたように思う。全般的に笑いも多く、生き生きと活動し、情緒の解放・安足にかなり効果があったのではないかと考える。今後も集団での取り組みと合わせて続けていきたい。

5. Y子の変容

月	生単	手指操作	ことは	自己統制	対人関係	備考
4	みんな仲良し	コートのお尻スタップがとめ山た。	ピョンピョン(ラマダ) タンタン(おめ) カッタ(置た) オウサン	お手伝いもみんな自分でやりたがり。他の子がすると叩く。	・学級より大きい集団の中では自己紹介が難しい	移動運動 3:7 お運動 3:4 体的習慣 3:8
5	仲良し連足	口の型に合わせはりえができました。	オウサン タタシ(お) シ、テ、ク、サイ おサン、ト、ヨル イヌ	・当番を決めること納得し、自分の日を楽しみにする。	・休んでいる友達を気にする。	対人関係 3:0 読書 2:6 言語理解 2:7 連珠(4月)

月	生 徒	手指操作	こ と は	自己統制	対人関係	備 考
6	あひる		タリ ゲンキ マタイコーナ			
7	七夕発表会 水遊び宿泊	・4cmの直線に沿ってはみか使えた。	センセイイ? ミル (見) センセーパン オシカッタ。 マタホウシ ワスレタ。	・友達を押して叱られた後、ゴメンナマイと言った涙ぐむ。	・"とんご"の劇を練習通り演じた。 ・宿泊を通して、N子と仲良くなった。	
9	運動会	・右手と左手と、どの指を指合せてきた。	アトル? ハンタイ センセーオハヨ ミンナオハヨ ドウシテ?	・運動会練習中、友達に乱暴することほとんどなかった。	・"とんご"の劇を体育館のステージで演じた。 ・合音で初めて歌の発表をした。	
10	いもほり宿泊	・粘土でひも・たばを作る ・グー、チョキ、パーを出した。	能シテウ イッショ イッショイ ドウシタア ソコダ。	・友達を叩いて泣かしたら頭をなでるようになった。	・R子と仲良くなり、まごごと人形あそびをよくする。	
11	学習発表会	・クレパスの筆圧が増し、ぬり込みができた。	ソウタノブレ メンハ行こう (劇中のセリ白)	・叩いてしまった後、先生と目が合えば叱らぬ前に自分からあやました。	・友達の世話をよくやる。	
12	クリスマス発表会	・中指の分化 ・5mm位の支え指先で作る。				

身体運動	4.0
手の運動	4.0
基本的動作	4.0
対人関係	3.4
発語	3.0
言語理解	3.0
遠く寺式(11月)	

6. 考察と今後の課題

重点を置いた手指操作、こ と は、自己統制、対人関係には、程度の差はあるが、いずれも成長・発達が見られる。指導効果以外の要因があるとしても、この取り組みが基本的には正しかったものとする。しかし、豊かな交流というものが、科学的・客観的な具体像を持たないため、正確にとりだけ能力がいったか難しい問題を持つ。今後、豊かな交流の具体的な行動も考え、それについてのチェック、反省も行いながら、且つ、丫子の繊細さに十分留意しながら取り組みを続けたいと考える。

参考文献

- 河添邦俊「障害児の言語指導と発達」 総合労働研究所
- 幼思言語研究会「幼思のこ と は教育入門」 - 光社
- 河添邦俊「障害児の発達と遊び」 ぶどう社
- 柚木 領「言語指導の遊びと教具」, 「実践障害児研究」 学研